

(S2019-36 用)

研究課題名	脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に基づく急性期医療体制の構築に関する研究 (Close The Gap – Stroke)
研究期間	西暦 2019 年 12 月 2 日 ~ 西暦 2021 年 3 月 31 日
研究の目的と意義	<p>本邦の診療実態に適合した脳卒中の QI (臨床指標) の開発には、大規模データベースの活用が重要です。専門施設を対象とした包括的脳卒中疾患登録としては、脳神経外科学会、脳卒中学会の協力支援事業である J-ASPECT 研究 (脳卒中年間約 10 万例、血管内治療などその他脳外科領域約 40 万例、合計約 50 万例)、脳卒中データバンク (約 11 万件)、Fukuoka Stroke Registry (約 1 万 7 千件) が代表的なものであります。この中で、J-ASPECT 研究は、DPC 情報を基本としており、比較的高い悉皆性を有していますが、QI による医療の質の評価は始まったばかりです。参加施設には、自施設の脳卒中患者の入院死亡率などのデータをフィードバックして、ベンチマーキングをホームページ上で毎年行っています。</p> <p>今後、本邦の脳卒中における大規模データベースを活用し、脳卒中を含む循環器病の医療の質を包括的に評価する QI を策定し、診療における具体的な目標設定を行うことで、継続的に脳卒中対策の進捗状況をモニターすることが可能となります。</p>
研究方法	<p>J-ASPECT 研究に参加する施設に調査期間内 (2016 年 1 月 ~ 2017 年 12 月) に退院した患者さんを対象とします。この研究を行う際は、カルテより情報を取得し、研究組織で策定した臨床指標を用いて、測定結果と取得した情報の関係性を分析し、脳卒中のアウトカム (死亡率など) に対する影響を明らかにします。</p> <p>全国で年間約 10 万例のデータが集まることが予想されます。本研究の研究内容、参加施設名、患者さん向けの資料などにつきましては、研究班ホームページ (J-ASPECT Study、https://j-aspect.jp) にて随時公開しております。</p> <p>本研究では、新たな検査や投薬等は行なわず、日常診療の中からの情報のみを用いて行ないますので、患者さんへの新たな負担等は発生しません。</p>
個人情報の保護、研究参加の拒否について	<p>利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p> <p>また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。</p>
結果の公表	研究で得られた結果は、学会、医学専門誌への発表を予定していますが、その際にも、患者さんの名前など対象者を特定できる情報は含まれません。
問合せ先	<p>【研究責任者】 京都第二赤十字病院 脳神経外科 副部長 村上 守 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL : 075-231-5171 (代) FAX : 075-256-3451 (代)</p>